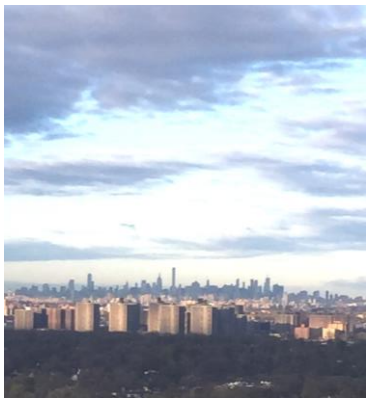
ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

平成30（2018）年
6月9日発行
第7号

夢のふくらむ学校

夢のふくらむ学校づくり　～グローバルということ　～



私事で恐縮ですが、住んでいるアパートの最上階にジムがあり、健康管理のために週に２、３回汗を流すようにしています。窓越しに、マンハッタンやG・ワシントンブリッジも見える眺めのよい場所で、私のお気に入りなのですが、ちょうどアパートの上空あたりが、ＪＦＫ空港かラガーディア空港への着陸ルートになっているようで、東方面からの飛行機が目の前を大きく右に旋回して、ロングアイランドの方向へ高度を落としていくのがよく見えます。西の方からも来る飛行機があるので、多いときは３０秒ほどの間隔で（実際はもっと時間差があるのでしょうが）、３～４機の飛行機が等間隔で一直線に降りていく様は、さすがに世界のニューヨーク！という感じです。どんどん人やモノが入ってきているのですね。（出て行く飛行機は遠くに見えることがあります。）きっと、補習校の子どもたちのお父さんやお母さんが出張帰りで乗ってきた飛行機もあるのだろうなぁ、と思いながら見ています。

補習校の教育目標の一つに「広く物事を考えて自ら実践する人間の育成を図る」があります。次々と飛来する飛行機を見て、様々な国から様々な人々がやって来るニューヨーク（アメリカ）には、文字通りDIVERSITY（多様性）いう言葉がぴったりだと思います。毎日現地校に通っている補習校の子どもたちこそ、多様性の中で幅広い考えを身につけ、自ら英語を習得しています。これこそ、学習指導要領が目指す「生きる力」の習得にほかなりません。文部科学省では、産学官が一体化したグローバル人材の育成を目指してますます変化の早さと激しさの増す世界情勢に対応しようと、世界戦略**「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」**を立ち上げました。そこには、**「帰国子女枠や長期留学経験者枠など特別枠の設定　～国際感覚や高い語学力を有する優れた学生を確保する観点から、帰国子女枠や長期留学経験者枠など海外経験を評価する入学試験制度を推進する。」**という項目も見えます。また、２０２０年度から大学入試センター試験を廃止し、「大学入学共通テスト」が始まります。（記述式の問題の導入をはじめ、特に聞く・話すなど４技能を評価する英語の試験の導入）。これらは、補習校生徒にとっても有利な入試改革ともいえます。ニューヨークで生活すること自体が国際感覚と語学（英語）能力を保証しています。これは、補習校に通う子どもたちの強い武器となります。あとは（母語としての）日本語の能力をいかに高めていくのか、です。補習校では、よりいっそう効果的な授業のあり方について、ほとんど毎週授業研究や研修会を行っています。先生方は、週日の仕事が忙しい中、授業準備をはじめ教材研究などに熱心に取り組んでいます。まだまだ道半ばですが、子どもたちの「夢」の実現に向けて、継続して研修してまいります。

さて、先日、ある補習校卒業生の面接を行いました。教務補佐の面接でした。彼は、幼児部から高等２年まで補習校に１２年間通ったそうです。やはり金曜日は魔の金曜日だったと付き添いのお母様もしみじみ振り返っておられました。しかし、挨拶などの礼儀作法や日本語の使い方など、今の日本の高校生よりもよほどしっかりした印象を受けました。補習校教育の一つの成功例と言ってもよいと思いました。彼は、大学でコンピュータサイエンスを勉強し、日本と世界の架け橋となりたいと夢を語ってくれました。感動しました。補習校の子どもたちも、夢を追い求めて世界に羽ばたいていってくれるように！と願わずにはいられません。保護者の皆様の、よりいっそうのご理解とご支援をお願いする次第です。

